

中尾院長が米国外科学会（ACS）の 名誉会員に選出されました

当院の中尾院長が米国外科学会（American College of Surgeons, ACS）の名誉会員に選出され、本年10月20日～25日に開催された「第104回 米国外科学会」での表彰式に出席しました。

ACSは世界で最も権威のある外科系学会であり、毎年1回アメリカで開催される学術集会には各国より著名な医療機関の医師、研究者が参加しています。名誉会員は1913年のACS設立以来、毎年4～5人が選出されています。中尾院長は外科の分野において傑出した実績があり、国際的な評価を受けたとして今回の名誉会員選出となりました。日本人の受賞者は16人であり、今回日本人で17人目の受賞者となりました。



ご挨拶

平素より病診連携にご理解・ご協力いただき、ありがとうございます。

癌の中でも診断・治療が難しいとされる膵臓がんですが、引き続き治療の発展に努め、世界に最先端の外科技術を発信していきたいと思っております。

今後とも膵臓がん症例のご紹介をどうぞよろしくお願いたします。

院長 中尾 昭公

平成30年度上期当直医表彰を実施しました

平成30年度上期の救急当直業務において、救急患者の積極的な受け入れを行い、大きく貢献した当直医を表彰しました。当院では、今後も質の高い救急医療の提供に向け、いっそう尽力して参ります。

【受賞者】 消化器内科 吉村透
消化器内科 服部智仁



第92回 病診連携勉強会

薬剤性腎障害

やしま あきひと

腎臓内科 主任医長 八島章人



平成30年8月21日（火）、病診連携システム登録医の先生方をお招きして勉強会を開催いたしました。勉強会の内容をまとめましたので、以下にご紹介いたします。

ここ最近、日々の診療で我々が使用する薬剤も多種多様にわたり、抗がん剤や造影剤などの腎機能に直接影響を与える薬剤の使用頻度も増えてきている。それを受けて日本腎臓学会では、昨今薬剤性腎障害ガイドライン、がん薬物療法時の腎障害ガイドライン、造影剤使用に関するガイドラインを次々に世に送り出し臨床家の需要にこたえてきた。

今回の講演会では、薬剤性腎障害をどのように診断、治療していくかについての概要と、またさまざまな薬剤性腎障害のうち、普段の日常で臨床家にすぐ役立つようなものをいくつかピックアップしてとりあげた。

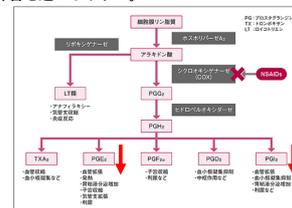
まず薬剤性腎障害に診断について解説を行った。特に薬剤性間質性障害では、濃尿を認めることが多いが尿中の好酸球増多があるかないかが特にアレルギー性機序の尿細管間質性腎炎の場合に重要となる。尿細管障害マーカーとしては尿中NAG、β2MGに加え欧米ではα1MGが重要であり、それぞれの意味するところを理解する必要がある。適応を踏まえた上で、ガリウムシンチや腎生検で最終的に診断をつけてステロイド治療をこころみることもある。NSAIDsによる急性腎障害はPG合成阻害による虚血性機序が主体であるが、それ以外にアレルギー性機序の急性間質性腎炎やネフローゼ症候群を起こすこともありうるため知っておく必要がある。古典的乳頭壊死では、乳頭部分の壊死、石灰化が画像上特徴的であるが最近ではフェナセチンの中止によって目にすることはほとんどない。腎障害時に使用しやすい鎮痛剤としては、アセトアミノフェンが代表的である。常用量である限り比較的安心して使用できる。RAAS阻害剤を内服しているケースでは、シックデーになると糸球体内圧低下によるろ過減少でAKIを起こしやすい。また正常血圧性虚血性腎障害のリスクにもなりうるため注意を要する。PPIによる腎障害は、低Mg血症による血管石灰化促進、またADMA上昇によるNO低下で腎血流が落ちるためという一説がある。PPIの使用に関してはメリットとデメリットを考慮しながら使用することになるであろう。

薬剤性腎障害の分類

- ① 血行動態の変化によるもの
- ② 急性間質性腎炎を起こすもの
- ③ 急性尿細管障害を起こすもの
- ④ 薬剤性血性微小血管症 (TMA) を起こすもの
- ⑤ 糸球体腎炎を起こすもの
- ⑥ 尿細管内に結晶が誘発されて起こるもの
- ⑦ その他

NSAIDsによる血管収縮由来の腎前性腎不全

有効循環血流量が低下しているような病態では、腎臓内のPG合成が亢進し血流を確保するように代償している。それに対しNSAIDsを投与するとPG合成阻害で血管収縮をきたし虚血性の薬剤性腎障害を起こしやすい。



最後に薬剤性腎障害の例として2症例を取り上げて解説した。1例目は、鎮痛剤連用によるブロム中毒で高CL血症を呈したものの。もう1例目はてんかん発作で多種類の抗けいれん薬を内服中、カルバマゼピンによる急性尿細管間質性腎炎を呈したものであり、腎生検を施行して診断をつけた上でステロイド治療を行うことで腎機能が回復に向かったものである。

「糖尿病のつどい」を開催します

糖尿病の啓発を目的とし、糖尿病予防・治療（食治療法、運動療法）について糖尿病患者様・地域の方々向けに講演を行います。

■日時：平成30年11月14日（水）

14:00～16:00（受付11:30～）

■会場：名古屋セントラル病院2階 多目的ホール

■テーマ：「糖尿病について」【講師】糖尿病看護認定看護師 渡邊 真智子

「糖尿病治療について」【講師】糖尿病・内分泌内科 医長 飯田 淳史

「実践につながる運動療法について」【講師】理学療法士 水谷正人

■その他：

- ・参加費無料・予約不要です
- ・12時より血圧・血糖・体重測定、足チェック等ができます
- ・当院2階レストラン「はなみずき」にて12時より「世界糖尿病デー記念イベントランチ」を提供いたします。

【1食 850円（税込）、当日限定10食】



昨年の様子

名古屋セントラル病院 糖尿病・内分泌内科の専門外来のご案内

糖尿病合併症外来 【第1・3月曜午後（飯田医師）】

糖尿病療養指導外来【第1・3月曜午後（担当看護師）】

糖尿病透析予防外来【第1・3月曜午後（飯田医師、担当栄養士、担当看護師）】

フットケア外来【第2・4月曜午後、第3金曜午後（担当看護師）】

★フットケア外来担当看護師（糖尿病療養指導士）のご紹介★



フットケア外来では、研修を修了した看護師が患者さんに適した足の手入れの方法を一緒に考え、足病変予防の指導・処置を行います。フットケア外来のみの受診も可能ですので、指導を希望される糖尿病患者さんがいらっしゃる場合は糖尿病内分泌科の医師までご依頼ください。

Event

第94回病診連携勉強会

日時：平成30年12月18日（火）14：00～

会場：名古屋セントラル病院 2階 多目的ホール

講師：糖尿病・内分泌内科 医長 飯田 淳史

テーマ：内分泌性高血圧症の診断と治療

日本医師会生涯教育講座 カリキュラムコード：74（高血圧症）

ぜひご参加ください。

第95回病診連携勉強会

平成31年2月16日（土）名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、第95回病診連携勉強会と意見交換会を開催します。詳細は後日、別途ご案内させていただきますので、ぜひご参加ください。

年末年始の外来休診のお知らせ

12月29日（土）～1月3日（木）は外来診療を休診いたします。

新年は1月4日（金）より平常通り診療いたします。

なお、業務の都合により各科の診療が変更となる場合もございますので
予めご了承願います。



■病院理念

- 1 安全で質が高く、快適でまごころのこもった患者本位の医療
- 2 健全な病院経営による地域社会への貢献
- 3 協力、責任感、積極性にあふれた活力ある病院づくり

■ビジョン

- 1 地域の中核病院として、常に先進的で専門的、良質で効率的な急性期医療を提供する
- 2 医学的根拠に基づく医療を確実に実践し、部門や職種を超えた安心で信頼感のあるチーム医療を提供する
- 3 充実した救急医療と予防医療を提供する
- 4 地域の医療機関と綿密に連携し、受診される皆さまに最適な医療環境を提供する
- 5 各々が医の倫理を徹底し、日々研鑽するとともに医療人の育成に努め、信頼され選ばれる病院をつくる

編集：名古屋セントラル病院 地域・法人連携室

〒453-0801 名古屋市中村区太閤三丁目7番7号 TEL:052-452-3165（代表） FAX:052-452-3182

E-mail:hospital@jr-central.co.jp URL:http://nagoya-central-hospital.com